

美術手帖

2011.08

vol.63 NO.955

<http://www.bijutsu.co.jp/bss/>

BT

ISSN号 2011年8月1日発行 毎月1回1日発行 1948年4月20日創刊3種郵便物認可 ISSN0287-2218

新スター誕生の瞬間を
目撃せよ!

特集

名和晃平

徹底解剖! 「SYNTHESIS」展
情報社会における感性の形象とは?

第54回ヴェネチア・ビエンナーレ

Artist Interview

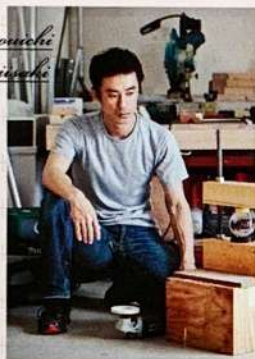
イエッペ・ハイン

SANDWICH | PRODUCTION

藤崎 了一

●テクニカル・ディレクター

高校時代から、
もっとも付き合いの長い盟友。
いわば、縁の下の力持ち。



*Kohei
Nawa*



● 作品の下地や
土台づくりを担当

上——2010年より、鹿の剥製を2つ重ねた「Double」シリーズに取り組んでいる

下——「LIQUID」シリーズの土台となる構造を手がける。グリッド状に開けた穴から空気が送り込まれ、泡が生まれる仕組み。塗装や樹脂、工具の知識が豊富な藤崎は制作手法についてのアイデアも出す

● 高いレベルでの完成度を求め、試行錯誤を繰り返してとことんやり抜く ●

高校時代に美大の予備校で名和と出会い、ともに京都市立芸術大学で彫刻を学びラグビー部だった藤崎了一。大学卒業後働いていた造型会社では樹脂や木材、金属など多様な素材を使って、造形物や建築模型をつくっていた。数年間その仕事を続けた後、ちょうどSANDWICHのリノベーションを始めたばかりの名和と会う機会があった。「SANDWICHの改装プロジェクトを建築家と一緒に進めているという話を聞いて、面白そうだなと思いました。建築現場での経験もあったので何か力になれるかもしれないと思った。物事をゼロから立ち上げる醍醐味が味わえるなんて滅多にないこと。自分が参加しようと思ったのも、その魅力に惹かれたからです。それから、現代美術の新鮮な感覚の中で仕事をしたいという思いもありました」。

藤崎は主に技術的なサポートや作業上の安全管理などを担当している。また、名和の大学でのプロジェクトに参加している学生たちとともに、継続的に行われているSANDWICHの改装や素地・構造制作などを行う。

これらの作業は、名和の構想に基づき、ほかのスタッフらと話し合いながら進めていく。

「『BEADS』シリーズの作品制作では、モチーフを360°回転させながら全ての面にガラスビーズを付けるので、その作業がスムーズに進むようなセッティングを考案、実施します」。取材時にスタジオ1階には巨大なエルクの剥製が回転できる状態で設置されていたのだが、その仕掛けをつくったのも藤崎だ。

SANDWICHについては「名和を中心に様々な人が、互いに関わり合いながら、ここで起こる出来事を吸収して、“人”も“場”もどんどん変化しています」。

藤崎から見た名和は「相当困難に見える物事でも常に高いレベルの完成度を求めて研究・改良を重ねる。そうやって試行錯誤を繰り返して、彼自身が作品から受け取りたいと考える感覚を作品から得られるまで、とことんやり抜く。そのスピード感と粘り強さは本当にすごいですね」。

ふじさき・りょういち 1975年大阪府生まれ。2003年、京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。